

学校法人 横浜実践看護専門学校
令和4年度学校関係者評価 報告書

1. 学校関係者評価委員会実施要領

日時	令和5年10月26日(木) 13:30~14:30
会場	横浜実践看護専門学校 8階 808・809演習会議室
出席者	[学校関係者評価委員]
	・庄司 邦枝 (横浜市立市民病院 看護部長)
	・出口 孝子 (独立行政法人地域医療機能推進機構相模野病院 看護部長)
	・鈴木 理香 (医療法人財団ユニメディコ佐藤内科クリニック 主任)
	・山田 五郎 (神奈川県総合教育センター 教育指導専門員)
	・獅々倉 聡 (神奈川県立平塚湘風高等学校 校長)
	[本校教職員]
	・山川 美喜子 (校長)
	・長谷 達也 (教務部長)
	・笥 保夫 (教務課課長補佐)
	・井上 登美子 (広報学生課課長補佐)
	・廣田 晶子 (教務主任)
	・高橋 日奈子 (教務部 実習調整者)
	・山陰 理恵 (教務部 実習調整者)

2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

(1) 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・人材育成像は定められているか ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を描いているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・目標育成人材像・特色などが学生、保護者等に周知されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・人材育成像について定めた上で、学生便覧・学生生活の手引きに明記。学生には入学時の新入生ガイダンスと校外研修において共有。保護者に対しては各学年の保護者会を実施して説明をしている。保護者会に於いても広く質疑を募る機会も設けており、本校の教育活動について理解を頂けていると考える。また、入学から卒業までのカリキュラムマップを作成。全学生、教員の到達度理解、共有に効果があった。 ・実践的な職業教育への理解をより深めるため、入学時の学生を対象とする新入生ガイダンスに加え、入学後1か月以内に保護者対象の職業教育に関する説明会をオンラインを積極活用しながら継続実施する。学生の成長や学びを支え自立を促す家庭の役割は職業教育において重要であり、保護者と学校との円滑な関係を築くことは国家試験合格に向けた学生の学習意欲の向上に繋がるため、学校から積極的に保護者へ働きかけ、家庭と学校でのダブルサポートを徹底していく。 ・オンラインを積極的に活用し、保護者が参加しやすい環境で保護者会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業までを可視化できる作成したカリキュラムマップを意図的に活用し、学生・保護者学校のの到達目標（ゴール）が明確になり共有できたことことは評価できる。 ・新入生ガイダンスは学習意欲の向上、各学年の保護者会開催は学校と保護者との関係構築には欠かせない。次年度は、行動制限も緩和されるため、対面での開催と保護者会の内容精選の取り組み、より職業教育に理解を深められるよう検討が必要である。 ・卒業後就職するが、自分のイメージとのギャップやコミュニケーションが苦手という理由で、新人看護師の早期離職が増えているのが現状である。専門職の認識や理解度を高めるとともに、卒業後の将来構造を学生が描けるような日頃の対応も必要である。

(2) 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・目標等の沿った運営方針、事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化され機能しているか ・人事・給与に関する規定は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や保護者からの問合せは、校長・教務主任・学年担任を中心に対応している。また、対応した内容については、定期ミーティング や定例会議、グループワークを通じて教職員間で綿密な情報共有を図っている。 ・コロナ感染拡大防止により予定の実習および実習途中での中止があり、学内実習で代替したが、学習効果に影響が出ないよう、シミュレーターモデルや教材用電子カルテを活用したシミュレーション実習を実施した。 ・コロナ禍で整備した学内のWi-Fi環境を活かし、ICTを活用した効果的な学習が定着してきている。業務も会議、連絡等において、各種オンラインツールを積極活用している。 ・学園本部と連携を図りながら、情報システムの導入、ITを活用した効果的な教育ならびに業務管理を目指していく。業務も会議、連絡等において、各種オンラインツールを積極活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院付属の学校でないため、教材のシミュレーターモデルや教材用電子カルテなど状況に応じた活用があり良い事である。 ・オンラインの長所を活用して、全員が無償貸与の個人パソコン活用はとても評価できる。 ・オンラインは実習打ち合わせにも活用され、問題なく進められているのは、オンライン活用のスキルが向上していると考えて良い。

(3) 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか ・教育理念・育成人材像や看護師需給を踏まえた修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確か ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの教育方法の作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な教育が体系づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修が行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響は軽減されたものの、オンライン授業も一部併用した。実習も学内実習に置き換え実施した。今後もコロナだけではなく、学習環境に何らかの制限が起こりうる状況は予測できるため、学内だけでなく近隣の学校や施設の状況などの把握とネットワーク作り、協力体制の構築が課題である。 ・新カリキュラム運用に向け、看護過程の学習会を計画し実施した。講師による講義と演習、プロジェクトチームの運営と教員全員の学習会を段階的に実施した。新しい取り組みのため教員の不安も大きい。新カリキュラム移行時の基礎看護学実習Ⅲに向け、情報交換や情報共有できる場を設けながら進めることが課題である。 ・学生の生活背景も様々であり、心身だけでなく経済的なサポートを必要とする学生が増加している。 ・旧カリキュラムでの卒業をする学生4名に、新旧対象表を提示した。自ら取り組み、計画的に取り組むことが苦手な学生のため、修得すべく単位の履修（100単位）ができるように、保護者との情報共有とサポート体制の強化とが課題である。 ・教育効果を最大限に引き出せるような新カリキュラム運用の評価と改善点の洗い出し 例・教授方法の見直し、キャリアビジョンを考慮したシラバス学習内の具体化など見直しを行う ・旧カリキュラムにて卒業をする学生4名の確実な単位履修に向け、計画的に学習に取り組めるよう、特に後期時間割の提示をする。実習調整・講師実習施設と単位未履修の学生の情報提供と情報交の実施、履修計画の相談と履修状況の確認を定期的に学生と実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導教員の確保の難しさは、看護学校が抱えている問題の一つである。また、臨地においても、実習指導者研修を受講した指導者とは限らない。これからも、実習指導教員のサポート体制を整え、学習環境を整える努力の継続が必要がある。実習指導教員への指導も常勤教員が行っているが、教育指導に差があるのは課題である。 ・新旧カリキュラムの対照表の作成が整ったため、学生個々の科目履修が全員出来るようサポートが必要となる。 ・旧カリキュラム学生の支援をするためには、保護者への説明やサポートをしていく良い。 ・ストレスに弱く、就職後にメンタルの問題で新人が退職するケースが増加してきた。学校でのメンタル面のサポートの継続と、ストレスの打ち勝つ何らかの方略の指導も必要である。

(4) 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が限られた中、病院説明会やインターシップに参加しながら就活動を行った。卒業後の5月に就職先が決定した学生1名を含め、就職率は100%であり、自身の希望する就職先に就職することができた。 ・国家試験合格率も2年連続で全国平均を上回る結果（95.5%）となった。とはいえ不合格者を出している現状であり、継続して100%の合格率を目指し、対応を進めたい。 ・3年次担当教員を中心に、これまでの丁寧な個別指導対応に加え、学内、学外の国家試験対策施策を積極的に導入。夫々の効果を判定しながら、より効果的な国家試験対策施策を見極めて行く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率100%、国家試験は全国平均を上回る結果で良かった。今後はさらに、国家試験は100%めざし取り組んでいただきたい。 ・成績低迷者の底上げをするためには、個人の取り組みが問題なのか、カリキュラムの進め方、教員方略に改善は必要なのか分析をして、早く学力アップをしていくような取り組みを試みてはどうか。

(5) 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備できているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生の支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との状況共有については、コロナ禍を考慮し、対面ではなくオンライン保護者会の開催とした。しかしオンラインでは保護者の方に学習環境をご理解頂くのに限界があり、学校に来ていただき、保護者の目で学習環境を見たり、教員と直接関わることで学校との信頼関係の構築に重要であると考えた。引き続き、感染状況に合わせ保護者会や行事などの開催の検討が課題である。 ・高校生との連携は、総合学科の高校生の体験講座を受け入れ（8月）、卒業生の連携は連絡体制の強化も継続している。また卒業生同士のネットワーク構築により、お互いの現場の現状を知る機会となる。在学生にとって卒業生の話を直接聴く機会は、学生のモチベーションの向上につながった。卒業生の来校時期や対象学年のレジネスを合わせた企画内容の精選が課題である。 ・学年による個人面接の実施、実習担当教員との面接、チューターによるサポートなど実施した。経済的問題を抱えている学生も増えている、事務との情報提供や情報共有も課題である。 ・学生に貸与するPCのトラブルが多い。トラブルの回避は難しいが、迅速な対応と対応マニュアルの作成が課題 ・昨年より継続し、担任制の更なる充実と、保護者との連携を強化することで、学校と家庭でのダブルサポート体制を充実させ、学生の状況把握や学習支援、生活支援を進めていく。保護者とは連絡を密にし、積極的にアプローチを進め学生サポート体制を充実する。 ・新カリキュラムでは、多職種連携や、より実践に近い判断能力が重視されている。科目に応じ、臨床で活躍されている専門看護師に、講義を依頼している。最新の現場の状況や知識に繋がる実習への意欲向上、学校や学生を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大防止のために、体調管理をLMS（学習管理システム）で報告できることとても良い。健康状況の把握がスムーズにできている。 ・卒業生から直接。看護の現場の話を聴くことで、めざす看護師の動機が高まり、学習意欲につながっているのは今後も続けると良い。 ・コロナ禍の保護者の経済的問題、奨学金担当も協力し、何とか学業を継続させたいので、情報は共有したほうが良い。 ・せっかくのLMSが機能するように、次年度の機種変更も考えると良い。 ・就職支援は学園の組織がバックアップしてくれると心強くて良い。

(6) 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場などについて十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学校の施設として10年が経過している。施設の点検および修繕計画と予算確保が課題。 ・防災訓練はコロナ禍の制限の中、可能な範囲の中での実施であった。異常気象や災害が頻発している。防災への興味関心を高め、命を護る意識の定着を図る防災訓練の時期や内容など精選が課題 ・学校施設及び備品の点検作業を行い、修繕の計画立案と実行 	<ul style="list-style-type: none"> ・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(7) 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものになっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集については、18才人口の減少、看護系大学が増設される中、ますます厳しさを増してくる。高校新卒者に囚われず、社会人を含め多様な人材の受入れが課題。 ・高校新卒者については、引き続き高等学校の進路担当教員との連携を深め効果的な受入れを行う。また、現役生、既卒生それぞれの関心事に合わせた募集イベントを設定し、募集間口を県内の大学にも拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳人口の減少は今後さらに進む。また、大学進学志望の傾向も高く、さらに学生募集が厳しい状況となってきている。現役生・既卒生の関心事に合わせたイベントの設定や、募集間口を県外に拡大することも、引き続き検討をしてもらいたい。

(8) 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none">・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか・財務について会計監査が適正に行われているか・財務情報公開監査の体制整備はできているか	<ul style="list-style-type: none">・法人の財務状況は適正であるが、学校単体では収入より支出が上回っており、法人により収支差を埋めてもらっている状況にある。・予算計画を基に運営しているが、コロナの影響による支出が増え、予算計画との差異が出た。・教育設備の導入にあたっては、教育カリキュラムにおける学生の使用頻度等の妥当性を精査したうえで決定し、学生の成長に資するために、導入設備の利活用を学校全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none">・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(9) 法令等の遵守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none">・法令、保健師助産師看護師法、専門学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか・個人情報に関し、その保護のため対策が取られているか・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか・自己評価結果を公表しているか	<ul style="list-style-type: none">・平成27年度より自己点検評価について情報公開し、過去の実施を元に点検項目や評価基準及び手法の妥当性について精査を進めている。・学生の特質や希望等を把握し、地域連携講座や神奈川県との包括協定等、社会活動の実施内容と照らし合わせた上で、学生に活動内容の紹介をしていく。併せて、年間計画と具体的な活動内容を全学生へ事前に周知し、学生が主体的に参加計画が立てられるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none">・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか・ボランティアなどの社会活動に参加しているか	<ul style="list-style-type: none">・学生は時間を有効活用して、神奈川県との包括協定による各種スポーツイベントや産学連携によるボランティア活動に積極的に参加している・学生の特質や希望等を把握し、地域連携講座や神奈川県との包括協定等、社会活動の実施内容と照らし合わせた上で、学生に活動内容の紹介をしていく。併せて、年間計画と具体的な活動内容を全学生へ事前に周知し、学生が主体的に参加計画が立てられるようにしていく	<ul style="list-style-type: none">・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(11) 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none">・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか・国際交流を意識した授業科目が設置されているか・国際的視野を広げるための学習環境を整えているか	<ul style="list-style-type: none">・留学生の受入体制は整備はされているが、2023年度生募集において入学志願者はいなかった・新型コロナウイルス感染症が5類に移行された事から、感染予防対策（マスク着用・手洗いうがい励行・3密の回避など）を継続しながら台湾研修を計画する	<ul style="list-style-type: none">・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

以上